羽島市立堀津小学校　学校便り　令和8年11月17日（火）

# まきの木

学校の教育目標
『心かに伝え合い　　たくましくやりぬく子』

## 熱い心を一つに（堀津小運動会）

10月31日（土）、まちにまった運動会が実施されました。運動会スローガン「熱い心を一つに」。子どもたちは運動会に向けて、競技の練習や係活動、応援練習を一生懸命に取り組みました。また、縦割りグループ「全校ダンス」、全校団体競技「YES！堀津」などを通して、全校みんなの心を一つにしてきました。その成果を、ご来場の保護者や地域の皆様、ご来賓の皆様に見ていただきました。

子どもたちは、どの競技にも全力でやり切り、友達や仲間と力を合わせて取り組み、楽しい運動会になりました。優勝した白団も準優勝の赤団も、最後まであきらめず、全力でやりきる姿勢、自分と同じように頑張る仲間を心から応援する姿があり、大変すがすがしい気持ちになりました。保護者やご家族、地域の皆様から、子どもたちへの温かい声援、準備や後片付けなどにもご協力をいただきました。誠にありがとうございました。これからも本校の教育活動、及びPTA活動へのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。







## 読む力と環境づくり




▼計算はできるのに文章問題が苦手。国語の成績が上がらない。課題は読書量と経験不足。国語の物語文や説明文、算数の文章問題、理科のデーター分析、社会科の資料など･･･、そもそも課題が読めない。出題の意図が分からない。授業中に、先生や仲間の話す内容や意図がつかめない。文章から読み取る力が足りないから、学んだことを吸収できない子が増えている。

▼その大きな要因が、ショート動画といわれる。ショート動画は、短く、分かりやすく、そして刺激の強いコンテンツ（動画・音声・画像・文章）で構成される。子どもはショート動画にハマっていく。受け身であり、刺激的で楽しい。前後の脈略がなくても、刺激が強ければ見続けられるし、慣れていく。本を読んでじっくりと考察し、想像したり、繰り返し確かめたり･･･そんな面倒なことがなく、次々と楽しいコンテンツが提供される。すると、長い文章を読む、前後の文脈を追う、知らない言葉を推測する等、大切な思考力や判断力を養う機会が減っていく。

▼小学3，4年生の頃、「9歳の壁」といわれる問題がある。学習が抽象的になり難しくなることや、友だちとの比較が増えて自信を失いやすくなる“成長の節目”のこと。低学年のうちは教科書に出てくる内容も身近で、言葉も比較的わかりやすい。ところが3，4年生になると、抽象的な言葉、説明のための言葉、考えを整理する言葉が増えてくる。日常会話であまり使わない「比較、原因、変化、性質、関係」などの「学習語彙」が一気に増える。日常の会話で使う「生活語彙」とは異なり、「学習語彙」は、読書をしないと身に付かない。新しい言葉、新しい概念、多面的・多角的な見方や考え方に出会い、気付き、考察し、自分のものにしていく。辞書などで言葉として覚えるだけでなく、文脈の中で何度も出会わないと意味がつながっていかない。そのためには、適切なレベルの本をたくさん読む必要がある。難しすぎる本では前後の文脈もわからない。簡単すぎる本ばかりでは新しい語彙に出会えない。だからこそ、その子に合った少しだけ背伸びの本をみつけ、読書をすることが大切。

▼読書にハマることで、学びにハマる。子どもたちにとって、本は勉強の道具である前に、未知の出会い、新しい発見に出会う楽しい世界。その楽しい世界にハマることで、結果的に読む力が育つ。読む力が育つと、授業やテストで受け取れる情報量が格段に上がり、学び全体の効率が変わる。子どもが夢中になれる本に出合い、少しだけ背伸びをしながら読み続ける環境を作る。家に新しい本がある。読みたい本がある。図書館で新しい本に出会う。本屋に行って新刊を買う…。環境が人を育てる。

「･･･文章が読めない子どもが増えている」より一部抜粋